

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成31年2月8日
【四半期会計期間】	第89期第3四半期（自平成30年10月1日至平成30年12月31日）
【会社名】	株式会社G S Iクレオス
【英訳名】	GSI Creos Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼社長執行役員 吉永直明
【本店の所在の場所】	東京都千代田区九段南二丁目3番1号
【電話番号】	東京（5211）1828
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 窪田満
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区九段南二丁目3番1号
【電話番号】	東京（5211）1828
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 窪田満
【縦覧に供する場所】	株式会社G S Iクレオス大阪支店 （大阪市中央区大手前一丁目7番31号（OMMビル）） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第88期 第3四半期連結 累計期間	第89期 第3四半期連結 累計期間	第88期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (百万円)	100,057	107,606	133,727
経常利益 (百万円)	1,494	1,460	1,502
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,026	945	913
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	1,501	380	1,123
純資産額 (百万円)	19,294	19,070	18,916
総資産額 (百万円)	62,209	63,289	62,677
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	159.15	146.51	141.62
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	31.02	30.13	30.18

回次	第88期 第3四半期連結 会計期間	第89期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	83.93	32.41

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、第88期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。
- 5 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が進むなか、個人消費にも持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、米中貿易摩擦や中国経済をはじめとする世界経済の下振れ懸念などにより、景気の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

このような状況下、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は、前年同期比7,549百万円、7.5%増収の107,606百万円、売上総利益は、前年同期比64百万円、0.6%減益の9,946百万円、営業利益は、前年同期比21百万円、1.5%増益の1,457百万円、経常利益は、前年同期比34百万円、2.3%減益の1,460百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比81百万円、8.0%減益の945百万円となりました。

当社は、2018年8月3日に3ヵ年の中期経営計画（2019年3月期～2021年3月期）を公表し、2020年ビジョン「ニッチな分野でグローバルに独自の機能を提供する事業創造型商社として社会に貢献する」を実現すべく、海外売上高の拡大、収益性の向上、人材の充実と働き方改革への対応および内部統制システムの充実とリスク管理の徹底の4つの重点施策を掲げ、収益基盤と財務体質の強化に取り組んでおります。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

繊維関連事業

機能性の高い原糸・生地の海外販売が大きく増加しました。また、婦人ファンデーションの取引が減少しましたが、中国におけるインナー製品のOEM取引は増加しました。

米国向けのアパレル用生地の取引とアウトター製品のOEM取引が増加しました。婦人ニット製品の輸入販売は減少しました。

以上の結果、当事業全体の売上高は、前年同期比7,301百万円、9.3%増収の85,754百万円、セグメント利益（営業利益）は、前年同期比132百万円、15.8%減益の705百万円となりました。

工業製品関連事業

欧米やアジア向けの塗料原料と米国向けの化学品の取引が前年並みに推移し、フィルム関連の取引は増加しました。

中国製半導体基板と機械装置の取引は堅調に推移しました。

ホビー関連と化粧品原料の取引は増加しました。

以上の結果、当事業全体の売上高は、前年同期比248百万円、1.2%増収の21,851百万円、セグメント利益（営業利益）は、前年同期比134百万円、14.1%増益の1,084百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、売上債権の増加などにより、前期末比612百万円増加の63,289百万円となりました。

負債は、仕入債務の増加などにより、前期末比457百万円増加の44,218百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益による株主資本の増加などにより、前期末比154百万円増加の19,070百万円となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発活動について、特記すべき事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成31年2月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,464,971	6,464,971	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	6,464,971	6,464,971	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年10月1日～ 平成30年12月31日	-	6,464,971	-	7,186	-	913

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成30年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 13,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,412,100	64,121	-
単元未満株式	普通株式 39,071	-	-
発行済株式総数	6,464,971	-	-
総株主の議決権	-	64,121	-

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が100株(議決権1個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式84株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社GS Iクレオス	東京都千代田区九段南二丁目3番1号	13,800	-	13,800	0.21
計	-	13,800	-	13,800	0.21

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人 保森会計事務所による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,636	11,905
受取手形及び売掛金	3 30,154	3 31,304
商品	8,138	8,968
未着商品	258	38
その他	1,182	1,308
貸倒引当金	283	282
流動資産合計	52,087	53,243
固定資産		
有形固定資産	4,407	4,505
無形固定資産	620	534
投資その他の資産	4 5,562	4 5,006
固定資産合計	10,589	10,046
資産合計	62,677	63,289
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 23,773	3 25,873
短期借入金	15,250	13,495
1年内返済予定の長期借入金	227	232
未払法人税等	276	177
引当金	466	258
その他	2,901	3,303
流動負債合計	42,895	43,340
固定負債		
長期借入金	355	279
退職給付に係る負債	143	141
その他	366	456
固定負債合計	865	877
負債合計	43,760	44,218
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,186	7,186
資本剰余金	855	855
利益剰余金	10,071	10,790
自己株式	22	23
株主資本合計	18,090	18,809
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	606	82
繰延ヘッジ損益	36	24
為替換算調整勘定	190	132
退職給付に係る調整累計額	65	71
その他の包括利益累計額合計	826	261
純資産合計	18,916	19,070
負債純資産合計	62,677	63,289

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	100,057	107,606
売上原価	90,046	97,660
売上総利益	10,010	9,946
販売費及び一般管理費	8,574	8,488
営業利益	1,436	1,457
営業外収益		
受取利息	39	42
受取配当金	59	51
為替差益	58	-
その他	88	88
営業外収益合計	245	183
営業外費用		
支払利息	145	130
為替差損	-	15
その他	41	34
営業外費用合計	187	181
経常利益	1,494	1,460
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	207	-
その他	0	-
特別利益合計	208	0
特別損失		
固定資産除却損	11	2
投資有価証券評価損	16	-
ゴルフ会員権売却損	-	4
関係会社出資金評価損	86	-
出資金評価損	20	79
その他	8	-
特別損失合計	143	85
税金等調整前四半期純利益	1,559	1,374
法人税、住民税及び事業税	430	414
法人税等調整額	102	15
法人税等合計	532	429
四半期純利益	1,026	945
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,026	945

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	1,026	945
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	514	524
繰延ヘッジ損益	18	12
為替換算調整勘定	74	57
退職給付に係る調整額	15	5
その他の包括利益合計	474	564
四半期包括利益	1,501	380
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,501	380

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の借入金に対し、保証しております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
日神工業株式会社	45百万円	日神工業株式会社 45百万円

2 手形割引高

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
受取手形割引高	183百万円	141百万円

3 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
受取手形	364百万円	358百万円
支払手形	359	436

4 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
投資その他の資産	263百万円	252百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	204百万円	211百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	193	3.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(注) 平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。「1株当たり配当額」につきましては、当該株式併合前の金額を記載しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	225	35	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	繊維関連事業	工業製品 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	78,453	21,603	100,057	-	100,057
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	0	0	0	-
計	78,453	21,603	100,057	0	100,057
セグメント利益	837	950	1,788	351	1,436

(注)1 セグメント利益の調整額 351百万円には、セグメント間取引消去18百万円、各報告セグメントに配分しない全社費用 370百万円が含まれております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	繊維関連事業	工業製品 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	85,754	21,851	107,606	-	107,606
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	0	0	0	-
計	85,754	21,851	107,606	0	107,606
セグメント利益	705	1,084	1,790	332	1,457

(注)1 セグメント利益の調整額 332百万円には、セグメント間取引消去15百万円、各報告セグメントに配分しない全社費用 347百万円が含まれております。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	159円15銭	146円51銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	1,026	945
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,026	945
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,452	6,451

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2 平成29年10月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年2月7日

株式会社GSICレオス
取締役会御中

監査法人 保森会計事務所

代表社員
業務執行社員 公認会計士 横山 博 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小山 貴久 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社GSICレオスの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社GSICレオス及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。